

第2章 現状分析

2-1 上位・関連計画の整理

1. 第2次安中市総合計画（平成30年3月策定）

【計画期間：平成30年度から令和8年度】

(1) 基本構想

■まちの将来像

みんな元気で いきいき暮らせる 市民総働¹のまち あんなか

■基本目標

まちの将来像	政策大綱	基本目標
みんな元気で 市民総働のまち いきいき暮らせる あんなか	1 都市基盤	人にやさしく、快適に暮らせる魅力的なまち
	2 環境・安全	豊かな自然に包まれ、安全・安心に暮らせるまち
	3 健康・福祉・子育て	いつまでも健やかでいきいきと暮らせるまち
	4 教育・文化・交流	生涯を通じて学び、人を育むまち
	5 産業・雇用	地域資源を活かした、にぎわいと活力のあるまち
	6 行財政・市民総働	効率的な行財政運営と、市民総働のまち

[資料：第2次安中市総合計画]

図 政策大綱・基本目標の対応

1 『市民総働』とは、市民・事業者・行政などの多様な主体が、共通の課題認識のもとに、それぞれの得意分野を活かして、『オール安中』で自主的・自立的に関わっていくことをイメージした、本市のまちづくりを象徴するキーワードです。

■都市整備の構想(土地利用の方針)

【土地利用エリア】

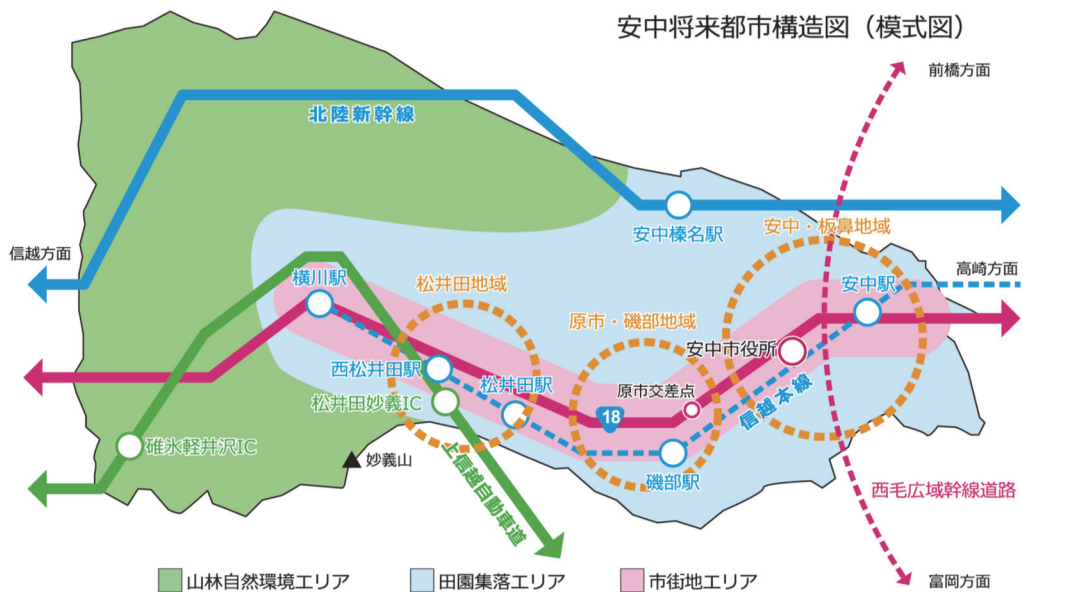
- ・ **市街地エリア**：「まちのまとまり」ごとに、コンパクトな市街地の形成を図る。
(安中・板鼻地域、原市・磯部地域、松井田地域)
- ・ **山林自然環境エリア**：自然環境の保全と広域観光交流や環境学習の場としての活用を図る。(市域西部の自然公園地域や森林地域)
- ・ **田園集落エリア**：自然環境・農業生産環境との調和を図り、集落地の生活環境の改善整備を進め、地域コミュニティの維持増進を図る。(農地・里山に介在する集落地)

【交通軸・都市軸】

- ・ **広域交通軸**：国道18号、西毛広域幹線道路((都)3・6・10南北中央幹線)
- ・ **地域連絡交通軸**：鉄道駅周辺の拠点地区と周辺地域を南北に連絡する幹線道路
- ・ **都市軸**：国道18号沿道、旧中山道沿道・JR信越本線沿線

【都市の拠点地区】

- ・ **都市拠点**：市役所・安中駅周辺
- ・ **地域生活拠点**：原市交差点・磯部駅周辺、松井田・西松井田駅周辺
- ・ **産業拠点**：大規模産業用地や工業団地
- ・ **広域観光交流ゾーン**：地域固有の資源を活かし、相互に連携して広域観光交流を促進する。(安中宿・安中城址周辺、磯部温泉、松井田宿、横川駅周辺・坂本宿・碓氷峠、秋間梅林、妙義山麓)



[資料:第2次安中市総合計画]

図 安中将来都市構造図

(2) 基本計画（景観に関する施策）

■適正な土地利用

・適正な土地利用

市街地では、住宅、商業、工業のバランスのとれた土地利用を推進するとともに、農村・中山間地域では、農地や集落地の環境改善・保全に努める。また、自然が多く残る地域における無秩序な開発を抑制し、自然環境の維持・保全を図る。

・太陽光発電設備に係る無秩序な開発の抑制

急傾斜地等の自然災害の危険性が高い地域への無秩序な太陽光発電設備の設置抑制を図り、良好な生活環境の保全と安全・安心な生活の確保に努める。

・景観の計画的な保全・維持

景観計画を策定し、地域固有の景観の保全と良好な景観の形成を推進し、地域の魅力を向上させる施策の計画的展開を図る。

■道路交通網の整備

・生活道路の整備

市民生活の利便性向上や安全性の確保、人にやさしい道路環境の充実と併せ、「道路里親制度」による、市民と行政との協働による美化・清掃活動を推進する。

■計画的な市街地の整備

・計画的な既存市街地の整備

地域ごとのまちづくりの経緯や特性を踏まえた魅力ある住宅地の形成を促進する。また、国道18号や旧中山道沿道の既存市街地、鉄道駅周辺を中心として相互に連携が図られた商業・業務地の形成を促進する。

・計画的な土地利用の推進

地区計画の活用、特定用途制限地域の指定や地区計画を併用した用途地域の変更等の検討により、用途地域内や用途地域縁辺部、特に西毛広域幹線道路周辺の地域における開発の適正な誘導を図る。

■住環境の整備

・空き家等の適切な管理と活用促進の計画的な推進

「安中市空き家等対策計画」に基づき、空き家等の適切な管理や活用を計画的に推進する。

■健全で良好な生活環境の維持

・健全な生態系を維持し、生物の多様性を確保するため、道路や河川などの基盤整備等にあたって、生態系への影響の軽減に努める。また、生物の多様性やその保全の重要性、外来種の影響、自然との共生などについて学習できる機会の充実を図る。

・里地・里山の役割について周知を図るとともに、市民や関係機関・団体等との連携による維持・管理活動を推進する。また、身近な自然環境や自然との共生について学習できる場としての活用を推進する。

■環境保全活動の促進

- ・環境について学び、行動するきっかけとなるイベントや情報提供を積極的に行い、市民、事業者の環境意識向上を促進するとともに、環境教育や活動を担う人材の育成を推進する。

■農業の振興

- ・農業者や市民と行政の協働により、農地と農業基盤が果たす環境保全や景観形成等の多面的機能の保全を図る。

■観光の振興

- ・市民総働による地域の観光資源の磨き直しや地域振興の検討などを促進し、地域活性化による観光振興を図る。
- ・広域的な観光連携を強化し、市内外の歴史文化遺産を観光資源として活用する広域的なネットワークの見直しと再構築を推進する。

2. 安中市都市計画マスタープラン（平成27年3月策定）

【計画期間：平成27年度から令和16年度】

■将来都市像

豊かな自然と歴史に包まれて
穏やかな暮らしが営まれ、いきいきした交流が育まれるまち
あんなか

■都市づくりの基本理念

1. 誰もが安心して住み続けられるまち
2. 多くの人を訪れいきいきと交流するまち
3. 働きやすく社会参加しやすいまち
4. 穏やかで美しくやすらぎの感じられるまち
5. あるものを結び付け、活かし、使いこなすまちづくり

■土地利用の方針

- ・山林自然環境エリア、田園集落エリアについては、山林・農地などの自然的土地利用を保全し、都市的土地利用を抑制する。また、市街地エリアについても用途地域の指定や地区計画などの土地利用に係るルールの方針により周辺の自然環境・農業環境と調和する土地利用を誘導する。
- ・用途地域外の田園集落エリアについては、無秩序な都市的土地利用、開発・宅地化を防止し、良好な自然環境・農業環境を保全するため、環境阻害の恐れのある用途の建築物を制限して、用途地域内への計画的な立地を誘導する特定用途制限地域などの制度の適用を検討する。

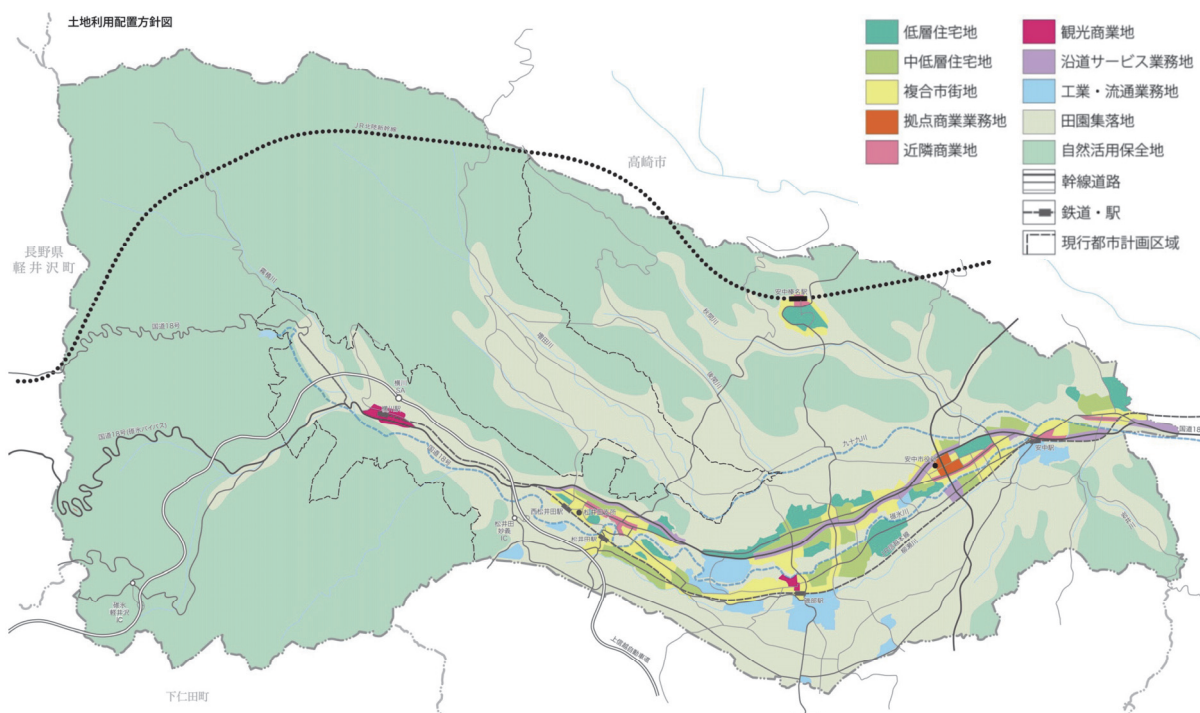


図 土地利用配置方針図

■市街地整備の方針

- ・広域観光交流ゾーンに位置する市街地については、旧街道沿道の街並みなど地域の歴史的資源を活かして広域交流が育まれるよう、交流の場となる道路・広場や訪れる人の利便に供する駐車場・休憩所の整備、商店街の環境整備など、一体的で特色ある市街地整備を推進する。

■自然・農業環境の保全・活用方針

- ・山林・農地など自然的土地利用とその環境については、保全を基本とし、山林自然環境エリア、田園集落エリアにおける都市的土地利用については、周辺の自然環境・農業生産環境と調和するものに限定する。
- ・利根川上流水源地の河川環境・水環境を保全するとともに、市街地に隣接する身近な自然環境である碓氷川・九十九川の河川敷については、水に親しむことができる緑地、広場、歩行空間として活用する。
- ・山林・農地については、自然環境や農業生産を学ぶ場、市民や広域から訪れる人々が交流する場として活用し、環境・土地利用の荒廃の防止を図る。

■公園・緑地の整備の方針

- ・地域の歴史遺構や良好な自然環境を保全し、歴史文化や自然を体験・学習する場、広域観光交流の場となる公園・緑地・広場の配置整備、施設機能更新を進める。
- ・河川自然環境と親しみながら憩い、交流する場として、治水機能の維持管理と調整を図りつつ、広がりのある河川敷については、親水性のある公園・緑地・広場、スポーツ施設の整備、機能更新を促進する。

■河川整備の方針

- ・水と親しめる自然環境、空閑地として河川自然環境、河川敷の環境の保全と活用を図る。

■都市環境・景観の整備・形成の方針

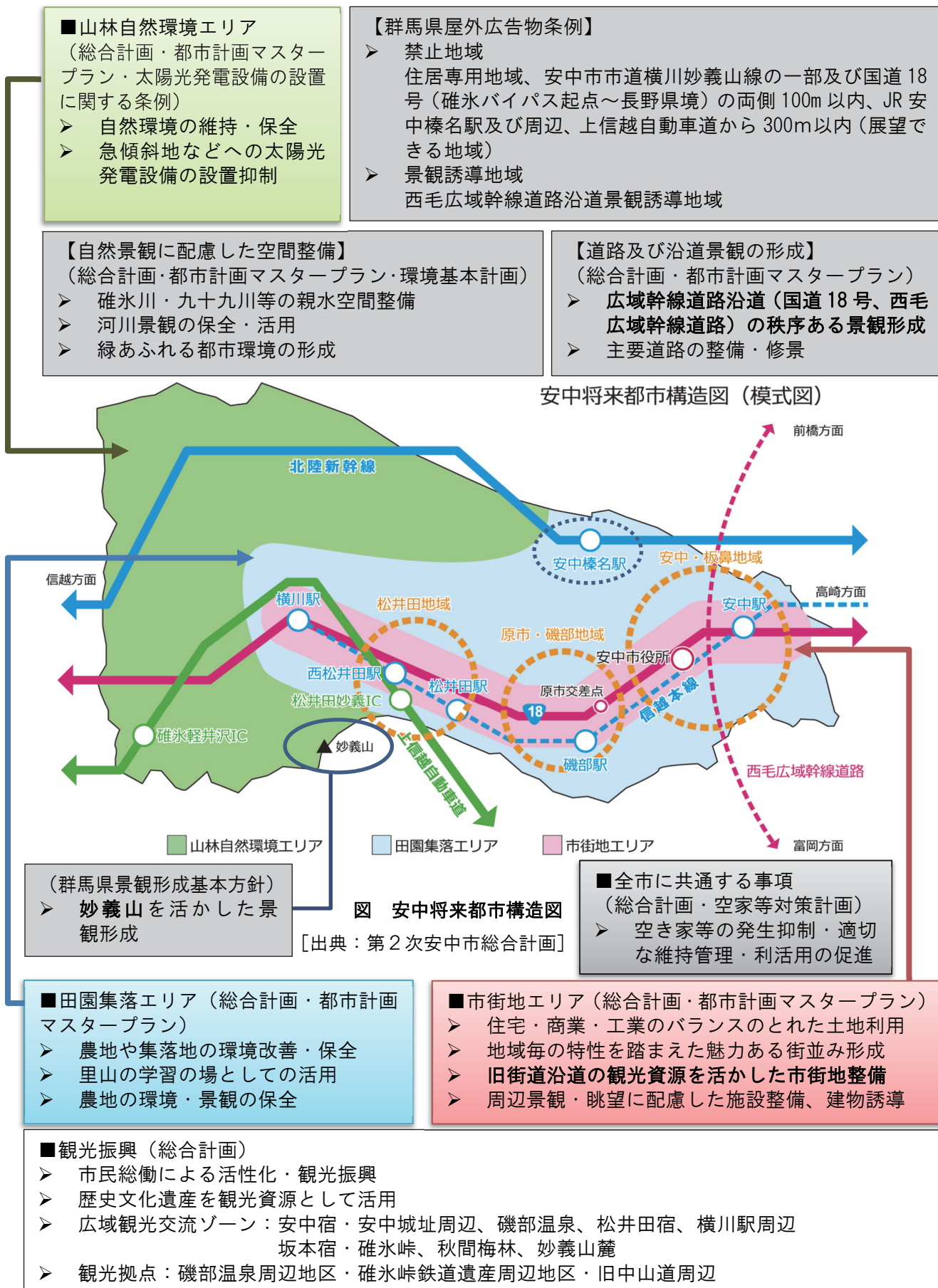
- ・宅地内と公共施設の緑化を促進し、公園・緑地・広場、保全緑地と合わせて、緑のネットワークを形成し、緑あふれ心やすらぐ都市環境を形成する。
- ・都市の基盤施設整備、市街地開発整備にあたって、地域の自然環境、生態系に配慮して自然と共生する形態、機能と工事手法による整備を促進する。

■都市景観形成の方針

- ・美しい景観・眺望を日々眺めて暮らし、囲まれていきいきした交流が育まれるよう、市街地の整備や施設・建築物の形態の誘導を進める。
- ・広域観光交流の資源となり、地域の歴史・文化を感じ、学び、継承することができる旧中山道の宿場町の風情ある街並みの保全、形成を図る。
- ・土地利用転換の動向が著しい広域幹線道路沿道では、沿道敷地の建築物の形態の誘導により、秩序ある沿道景観の形成を図る。

3. 上位・関連計画のまとめ

第2次安中市総合計画に示す将来都市構造図をもとに、本市における景観形成に関する上位・関連計画の位置づけを以下のように整理します。

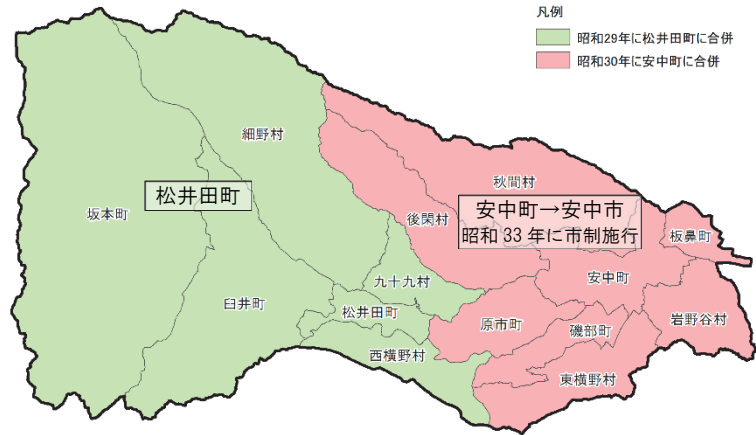


2-2 市の概要

1. 市の成り立ち

昭和 29 年に 3 町 3 村が合併して松井田町、昭和 30 年に 4 町 4 村が合併して安中町が誕生しました。その後、昭和 33 年に安中町は市制施行し、安中市となりました。

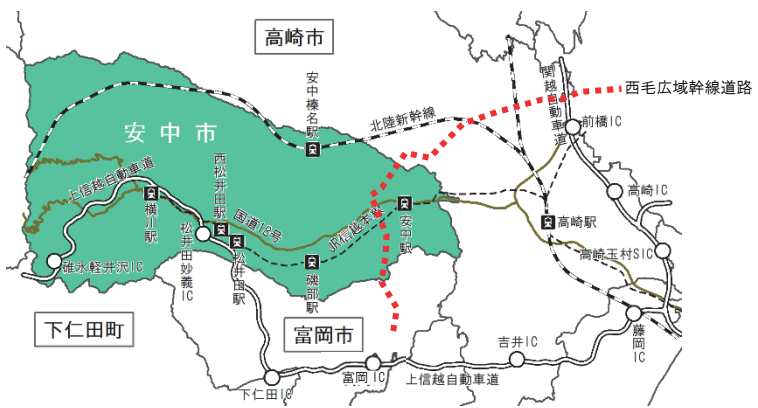
平成の大合併の流れの中で、平成 18 年 3 月 18 日に、安中市と松井田町が合併し、現在の安中市が誕生しました。



本市は、旧石器時代より人々の居住が見られ、横穴式石室を有する前方後円墳として関東地方ではもっとも古い特徴を備えている築瀬二子塚古墳(国指定史跡)などの歴史的資産を有しています。また、古くから峠越えの交通路が集中する交通の要衝の地であり、古代には東山道、中世では鎌倉街道が、江戸時代には中山道が整備され、板鼻・安中・松井田・坂本の 4 つの宿場町が繁栄しました。中山道は江戸と京都を結ぶ重要な街道であり、碓氷関所跡や五料の茶屋本陣、宿場町のまち並み、杉並木など多くの人々が行き交った当時の面影が今も残っています。明治時代には、碓氷峠を越えるアプト式鉄道²が建設され、峠を越える重要な公共交通として運行されました。現在も、碓氷第三橋梁や旧丸山変電所などの関連施設が国指定重要文化財として保全、活用されています。

2. 主要な交通網

主要な道路としては、東西に通る国道 18 号と松井田妙義、碓氷軽井沢の 2 つのインターチェンジを擁する上信越自動車道を軸とした道路網が形成されています。また、県内を結ぶ主要幹線道路の一つである西毛広域幹線道路の整備が進められています。



鉄道は、東西方向に JR 信越本線が通り、安中、磯部、松井田、西松井田、横川の 5 つの鉄道駅があります。また、市北部には北陸新幹線の安中榛名駅があり、JR 信越本線とともに市内の鉄道公共交通を担っています。

² 信越本線に採用されていた鉄道形式の名称。

『アプト』の発音は英語に近く、形式を示す正式な読み方です。

市内の遊歩道『アプトの道』はもとのドイツ語の発音に近い読み方を採用しています。

3. 位置、地勢

本市は、群馬県の西部に位置し、高崎市、富岡市、下仁田町及び長野県軽井沢町と接しています。市域は、東西約27km、南北約12kmにわたり、面積は約276.31km²です。

市域西部には上毛三山の一つである妙義山や碓氷峠を擁する霧積山地などの標高1,000m級の山々を有し、東部には丘陵地及び平地が広がり、その標高差は1,000mを超えています。

また、市内を東西に流れる碓氷川や九十九川によって起伏に富んだ河岸段丘が形成され、段丘面の平地が市街地や農地として利用されてきました。特に、碓氷川左岸の高台上には本市の中心市街地が形成され、右岸側は農地が広がっているなど、地形の違いに合わせ土地利用の仕方が異なる点も本市の特徴の一つです。

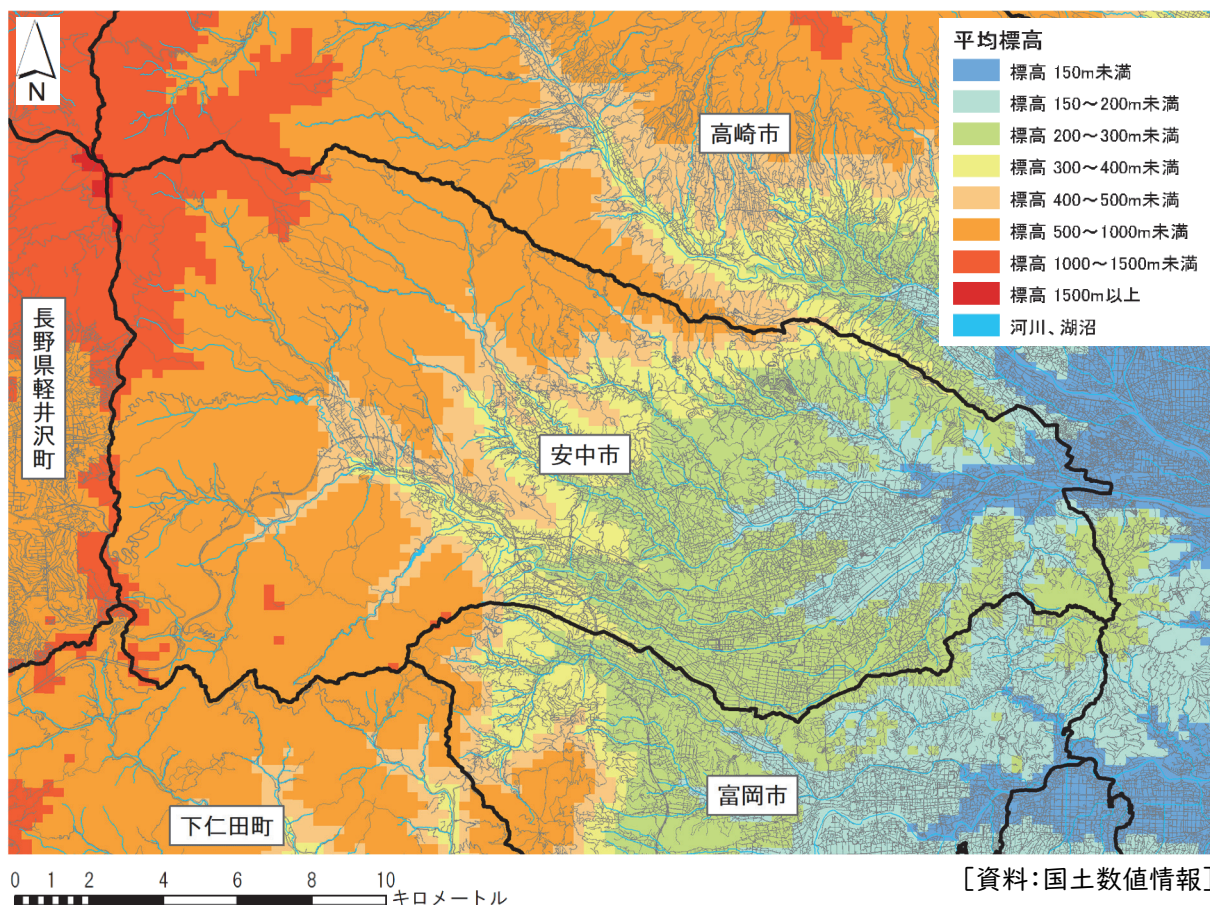
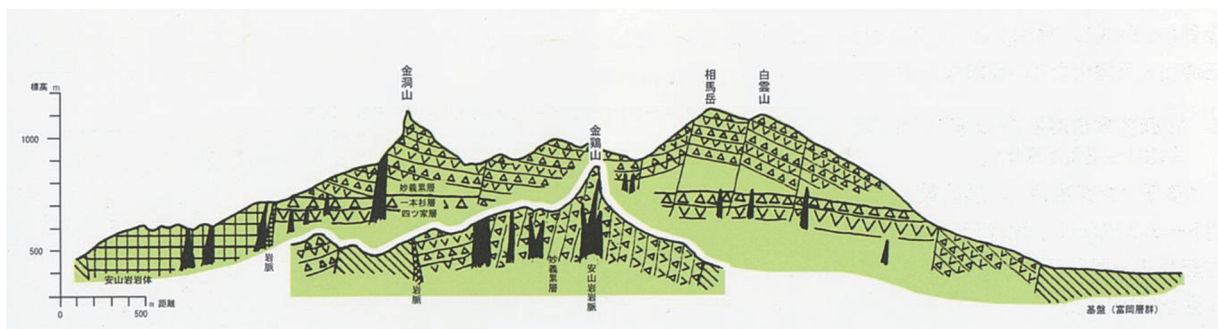
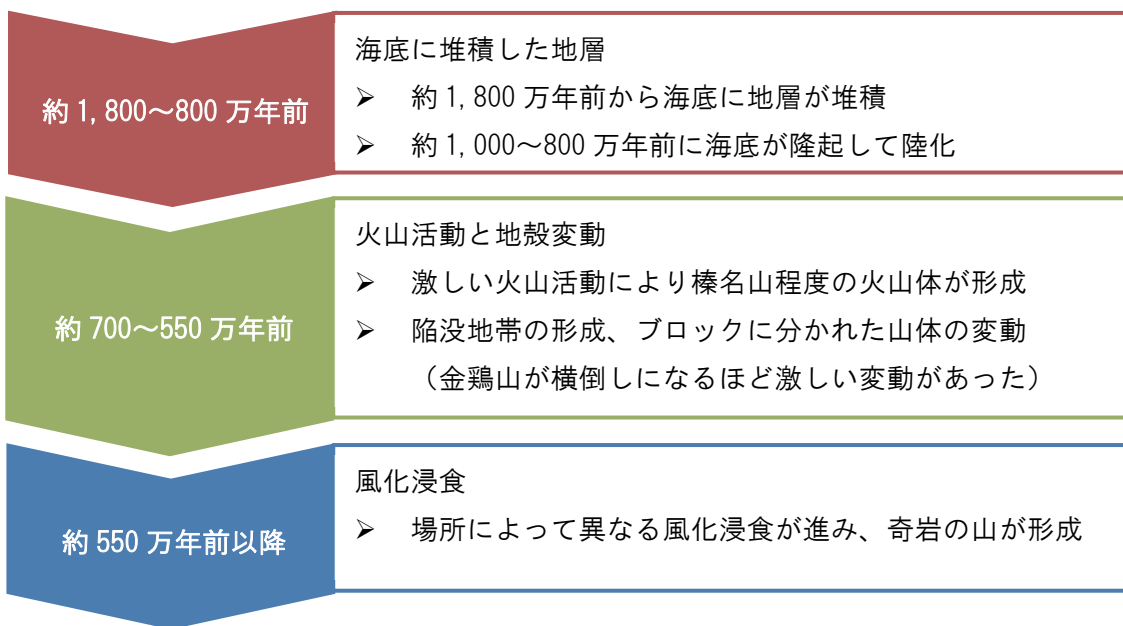


図 位置図

■ 妙義山の成り立ち

妙義山は、大分県の耶馬溪、香川県の寒霞溪とともに日本三大奇勝に数えられ、おき出しの奇岩が特徴的な、本市を代表する景観をつくり出しています。

この地形は、約1,800万年前以降、当時本市周辺に広がっていた海底の地層が隆起して陸化し、火山活動と地殻変動によって火山体ができ、風化浸食作用により形成されたことが明らかになってきました。特筆すべき点が、激しい地殻変動により陥没地帯が形成された上、火山体が10数個のブロックに分かれて動いたことであり、それぞれの断層に沿ってマグマの上昇が起こり、世界的にも珍しい複雑な地質の火山体が形成されました。この火山体は、地質の複雑さから場所によって風化浸食に違いが生じ、長い年月をかけて刻まれていくことで、奇岩やそそり立つ絶壁を有する現在の妙義山の山容となりました。



[出典:『上毛三山』赤城・榛名・妙義の歴史と信仰]

図 妙義山地質断面概念図

4. 市内における景観形成の取組

市内では下記のような景観形成に向けた取組が進められています。

■道路や河川の清掃美化活動

市内の道路・河川では、地元の皆様のご協力による清掃美化の取組が行われています。

市では、「安中市道路里親制度」として、住民の団体や企業を募り、道路や河川など一定区画の清掃美化にご協力をお願いしています。

目的	住民や企業と行政が協力して快適で美しい道路環境づくりを推進するとともに、道路愛護精神の高揚を図ること
対象	安中市市道
協力内容	道路の清掃および除草、道路の破損・危険箇所などの情報提供など
市の取組	物品（軍手など）や用具（ほうき・塵取りなど）の支給や保険の加入を行い、活動を支援

また、群馬県が管理する道路・河川において、住民の団体や企業による環境美化活動を支援しています。また、一定の条件を満たした住民団体には奨励金の交付を行っています。（「花と緑のクリーン作戦」）

■旧中山道の歴史の道整備

旧中山道、碓氷峠、堂峰番所、碓氷関所跡の国指定史跡指定を目指し、旧中山道の史跡活用について検討を進めています。現在は有識者に加わって頂き、江戸時代の道筋の確定や、歩行者空間の整備について検討しています。

■おもてなし花壇（あんなかオープンガーデン）

市民や団体・企業の協力により、所有されている方が育てた花壇や庭を一般に公開する取組です。花と緑のぐんまづくり 2017 の事業の一つとして始まりました。

■西毛広域幹線道路沿道の景観整備

西毛広域幹線道路の整備に際して群馬県は、「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」³として、県民が地域の社会資本に愛着を持ち、誇りに思える県土を築くため、地域特性を踏まえたデザインの採用による、道路とその周辺における整備検討を進めています。

³ 『ぐんまの風景を魅せるインフラ整備』とは、地域の魅力を高め、『もっと住みたくなる・もっと訪れたくなる・もっと自慢したくなる』群馬県をつくるために県が進める取組です。

2-3 景観資源調査

1. 景観資源の考え方

景観資源は、文化財などの文献などによる机上調査による抽出と、現地調査による確認・追加、市民意向調査結果を踏まえ、設定します。

本市の景観資源は、自然や歴史、日常生活や交流などに関わるものなど様々なものがあります。本章では、下記の7つの観点で整理します。

● 自然的な景観

基本的な景観の骨格や地域の特性を形づくる自然的な景観

【景観資源】

- (1) 山：地形・山なみ、森林
- (2) 河川と湖：川、湖、滝などの水辺

● 歴史的な景観

過去の社会・経済やまちづくりの状況等の歴史的な流れを伝えてくれる歴史的な景観

【景観資源】

- (3) 歴史：旧中山道、史跡、文化財、社寺、祭事、重要樹木

● 日常生活や交流に関わる景観

現在の産業、文化、生活を反映する土地利用、交通網、建築物等の景観

【景観資源】

- (4) 田園と農村：農地・集落地景観
- (5) 市街地：用途地域（住・商・工）
- (6) 施設：公共・公益施設、レクリエーション・集客施設等
公民館等、公園運動施設、学校、レジャー施設
- (7) 交通：道路、鉄道

図 景観資源の種別

2. 本市の景観資源

(1) 山

500m を超える標高差を誇る長野県境の碓氷峠を擁する本市は、関東平野の西端に位置し、平地から溪谷や急峻な山岳まで、変化のある特徴的な地形に恵まれています。

市街地や農村集落は丘陵や里山に抱かれるように形成され、市内の各所から、群馬県を代表する山である妙義山・赤城山・榛名山の「上毛三山」や、上信国境の秀峰である浅間山などを眺めることができます。

なかでも妙義山は、市民を対象としたアンケート調査でも高い人気を誇り、市民に愛されている本市を代表する景観資源といえます。妙義山はその複雑な形状や連なりのため、見る場所により異なる姿を現します。市民はそれぞれ、自分が生まれ育った場所からの眺め、あるいは思い出の場所からの眺めなど、自慢の妙義山の眺めを持っています。

また、里山には地域住民等により遊歩道や登山道が整備されているものがあり、手軽に登って雄大なパノラマを楽しむこともできます。



花ノ木橋付近からの妙義山(下後閑)

【妙義山】

妙義山は安中市・富岡市・下仁田町にまたがり、白雲山(1,104m)、金洞山、金鷄山の三山で象徴される表妙義と、谷急山(1,162m)、烏帽子岩、赤岩、丁須の頭、御岳などの山々で構成される裏妙義を総称しての呼び名です。妙義荒船佐久高原国定公園の一部となっているほか、国指定名勝となっています。また、日本三大奇勝の一つといわれており、自然の造形美ともいえる奇岩奇石群に圧倒されます。

妙義山の鋸歯状の奇岩峰は、太古の火山が、度重なる爆破作用と長い年月にわたる風雨に浸食され、岩盤の最も堅固な部分だけが残ったものといわれています。

安中市側の裏妙義には、金槌型をした奇岩である丁須の頭や、落差 40mの麻苧の滝、オシドリ越冬地として知られる妙義湖などがあり、四季を通して多彩に自然を楽しめます。特に秋は、モミジやカエデなどの紅葉が見事で、多くの人々が登山や紅葉狩りに訪れます。



丁須の頭(裏妙義)



石尊山の麓からの眺め(東上秋間)

【里山】

石尊山は、安中市北部、高崎市との境にある標高 571mの里山です。古くから石尊信仰が行われており、所々に置かれた石の祠や山頂の石宮がその歴史を物語っています。

山頂はもとより、麓の道路からでも筑波山、南アルプス、妙義山、浅間山などのパノラマや、市街地や農村集落の俯瞰を楽しむことができます。遊歩道も整備され、近くの赤穂義士四十七士石像を巡るハイキングコースにもなっています。



崇台山からの眺め(上間仁田)

崇台山は、安中市南部、富岡市との境にある、地元の人々に親しまれているふるさとの山です。標高 299mの低山ながら、山頂は 360 度のパノラマを楽しむことができます。春にはおよそ 130 本の桜が咲き誇り、花見を楽しむ人で賑わいます。

登山道は地元の人々により手入れされ、天気が良いければ、眼下に集落や谷津田を俯瞰しながら、浅間山や上毛三山などを遠望できます。

(2) 河川と湖

本市は碓氷川が東西に横断し、その 37 の支川と共に、地域の人々の生活にうるおいをもたらしています。流域の西部にはダム湖や滝が点在し、中央部から東部にかけては河岸段丘が見られます。



碓氷川

【碓氷川】

碓氷川は、利根川水系烏川の支川で、本市と長野県軽井沢町の境界に位置する一ノ字山に源を発し、途中で霧積川、中木川、九十九川、柳瀬川等を合流しながら市内を貫流する本市を代表する一級河川です。

上流部から中流部では大きく蛇行し、中流部から下流部には河岸段丘が発達しています。

特に、河岸段丘は碓氷川の特筆すべき地形的特徴です。分布範囲は碓氷川と中木川の合流点付近から岩井川合流点まであり、面積は約 46 km² に及びます。

原市付近では世界最古、1,130 万年前のマイルカ科の化石が発見されているほか、安中の扇城橋付近では甌穴も見られます。



甌穴(安中)



【九十九川】

九十九川は、上流部に仙ヶ滝を擁する緩やかに蛇行した一級河川です。下流部にはサイクリングロードが整備され、上流方向に視線を向ければ、妙義山の見通しを楽しめます。安中市スポーツセンター前の桜並木は市民に人気の花見スポットになっています。



【湖】

碓氷湖は、中尾川と碓氷川の合流点をせき止めて造った人工湖で、四方を国有林の大木に覆われています。四季折々美しい姿を見せますが、特に秋の湖面に映る紅葉は素晴らしいもので、多くの観光客が訪れます。

湖畔を一周する遊歩道が整備されており、ゆっくりと景色を楽しむことができます。



妙義湖は、裏妙義のそそり立つ岩山を映すダム湖で、春は桜、夏は青葉、秋は紅葉と、どの季節も素晴らしいですが、オシドリが群れ泳ぐ冬は格別です。

ダム堤体の下流側正面には橋があり、タイミングが合えば、ダイナミックな放流シーンを見ることができます。



霧積湖は、碓氷川支流の霧積川をせき止めたダム湖です。霧積ダムは、群馬県施工第1号のダムとして、昭和51年度に完成した、堤高59m、堤頂長305mの治水を目的としたダムです。

湖からさらに奥に向かうと、軽井沢が開かれるまで避暑地として名を馳せた秘湯霧積温泉があります。かつて霧積には多くの文人墨客が訪れており、旅館には伊藤博文が明治憲法草案を起草した部屋が残されています。



【滝】

仙ヶ滝は、九十九川の上流にある美しい滝です。ごうごうと音を立て、15mの高さから放物線を描き落ちる様は見ごたえがあります。四季を通して楽しめますが、新緑や紅葉の時期が見頃です。

この滝は、松井田城落城のとき、城主の娘お仙が身を投じたという伝説から名付けられました。

滝の裏側に石仏が並び立ち、裏見の滝の形態を有していますが、落石の危険があるため滝つぼめぐりは禁止されています。



麻苧の滝は、横川駅の南西、碓氷川に注ぐ鍵沢にあり、その高さは約40m、断崖から麻の簾を垂らしたような飛瀑からこの名が付けられています。

この滝は、古くから山岳信仰の修験場として知られ、山中には数多くの石仏が散在しています。岩間を流れ落ちることから水量は降雨状況に左右されますが、夏はひんやりと涼しく、厳冬となれば全面結氷して見事な氷瀑が姿を現します。

付近にはほかに6つの滝があり、合わせて麻苧七滝と呼ばれ、「麻苧の滝自然公園」として遊歩道が整備されています。

(3) 歴史

本市には旧碓氷峠鉄道施設など、全国的に知名度が高く歴史的価値の高い景観資源があるほか、旧中山道沿いには宿場町の名残が多くみられます。



碓氷第三橋梁「めがね橋」(坂本)

【碓氷峠鉄道遺産】

旧碓氷峠鉄道施設は、かつての信越本線の碓氷峠越え区間(横川～長野県軽井沢町、約 11.2 km)に現存する橋梁や隧道などの建造物から構成されています。

旧碓氷線は、最大 66.7 パーミル(1,000m進む間に 66.7m上がる、もしくは下がる)という幹線としては日本で最も急であった勾配に対応するため、ドイツの山岳鉄道で用いられていたアプト式(歯形を有する複数のラックレールに機関車の歯車を噛み合わせる方式)が採用されました。明治 26 年(1893 年)に開通し、その後、昭和 38 年(1963 年)の粘着式(摩擦に頼った一般的な運転方式)による新線の開通によりその役目を終えています。

現在、旧碓氷線の線路跡のうち横川～熊ノ平の区間は、遊歩道「アプトの道」⁴として整備されています。コース中には、国指定重要文化財の橋梁やトンネル、建造物などが残されており、四季折々の周囲の自然と鉄道施設の組み合わせは多くの人々を魅了しています。



旧丸山変電所(横川)

⁴ PIO の注釈をご参照ください。



旧中山道(安中原市の杉並木)



五料の茶屋本陣



碓氷関所跡(横川)



坂本宿と刎石山



坂本宿の浮世絵
(提供：中島徳造氏)

【街道】

東山道は畿内から陸奥国に至る東山道諸国の国府を結ぶ駅路として設けられ、旧松井田町の丘陵地帯から旧安中市を通り、高崎市に続いていく道とされています。また、『延喜式』や『和名類聚抄』によると、坂本駅と野後駅が置かれたと記されていますが、発掘調査でははっきりとした遺構は確認されていないのが現状です。

鎌倉街道は、軍事道路として鎌倉幕府と各地を結ぶ道として作られましたが、鎌倉街道と呼ばれるようになったのは、近世になってからとされています。鎌倉街道は、「上道」「中道」「下道」と呼ばれる3本の主要幹線があり、その中でも上野の国府を通り、碓氷峠を越えて信濃へ行く「上道」が市内を通過していたとされています。

中山道は、江戸時代の五街道の一つであり、江戸と京都を結ぶ幹線道路として、海沿いを行く東海道と並び日本の大動脈でした。

延長 132 里余(530 km)。木曾の山中を通ることから、俗に木曾街道・木曾路とも呼ばれ、碓氷峠や和田峠などの難所も多くありました。しかし、東海道に比べて大河川が無く、川越しや川留めなどの障害が少なく、夏は涼しいという利点があったので、参勤交代の大名行列はもちろん、幕末の和宮の御降嫁をはじめ諸姫君の通行や日光例幣使の通路としてもよく利用された街道です。

道中には 69 の宿駅が設けられ、そのうち現在の安中市内には、板鼻・安中・松井田・坂本の4宿が置かれました。また、宿から宿までの間の“間の宿”として原市・五料・横川などの街村があり、横川には「入り鉄砲に出女」を厳しく取り締まった「碓氷の関所」が置かれていました。

市内の旧街道沿いには国指定の天然記念物である安中原市の杉並木、五料の茶屋本陣、碓氷関所跡など、往時の面影を伝える史跡が数多く残されています。街並みは変わっても、山や川の風景などの中に、浮世絵に描かれたままの姿を見つけることができます。



【安中教会】

日本キリスト教団安中教会の礼拝堂は、新島襄にいじまじょうの死去後30年を経た大正8年(1919年)に竣工しました。正式には「新島襄記念会堂」といいます。設計者は後樂園スタジアムや多くの教会建築を手がけた古橋柳太郎ふるはしりゅうたろうです。大谷石造の建物としてはフランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル(大正12年(1923年)竣工)より古く、建築史上の意義が高く評価されています。

新島襄は、天保14年(1843年)に安中藩板倉家の江戸上屋敷に生まれました。元治元年(1864年)国禁を犯してアメリカに渡り、キリスト教を学んだ後、明治7年(1874年)明治政府下の日本に帰国しました。その後は明治8年(1875年)に同志社英学校を創立するなど、キリスト教の伝道と教育に尽力しました。

安中教会は明治11年(1878年)、新島襄が安中に滞在した際に、30人の求道者が洗礼を受け設立されました。日本人の手で創立された日本で最初の教会です。



【社寺】

市内には他にも松井田八幡宮本殿や不動寺の仁王門など、歴史的価値のある建築物などが多く残っています。市の重要文化財として登録されている社寺や、それらが所有する塔や鐘なども数多くあり、歴史的景観資源として継承されています。また、安政遠足マラソンあんせいとおあしのゴール地として知られ、群馬県と長野県の県境に位置する熊野神社や恋人の聖地として認定された赤城神社、全性寺の悟留ごるふ観音菩薩、羊の形をした狛犬がある羊神社などは、市民だけでなく市外からの人からも親しまれています。

(4) 田園と農村

市内では標高差を活かした様々な農業が営まれており、特徴的な農業景観を形づくっています。

碓氷川・九十九川流域に発達した水田地帯や、東横野・西横野の台地上の畑作地帯では、碁盤の目のように耕地整備された大規模な農地が見られます。山間部では、谷津田や果樹園など、懐かしさを感じさせる農地・農村景観が残っています。

代表的な農畜産物は、秋間梅林を中心に山間部で梅が生産されるほか、野菜は水はけの良い土壌条件からネギ、ナス、コンニャク栽培が盛んです。農業産出額ベースでは耕種農業と畜産農業の割合がほぼ半々となっており、農村部には畜舎も点在しています。



水田と妙義山(東上磯部)



畑と妙義山(中野谷)



山間部の棚田(上後閑)



谷津田(上間仁田)



櫛ぐね(人見)

【櫛ぐね】

農村集落には「櫛ぐね」と呼ばれる生け垣を備えた屋敷が見られます。櫛ぐねは防風のために母屋の屋根の高さに合わせた背の高い生け垣で、本市をはじめ、からっ風の吹く群馬県に特有の景観です。



碓氷製糸(新堀)

【養蚕】

かつては養蚕が栄えており、現在も一部に残る桑園や、蚕の飼育のため、屋根の上に「気抜き」と呼ばれる越屋根付きの櫓を備えた農家が往時の面影を伝えています。

碓氷製糸株式会社は国内に残る製糸工場で最大のもので、ここで行われている器械製糸は国内では碓氷製糸を含めて2か所にしか残っていません。高品質な生糸を生み出す器械製糸は、戦前まで日本の輸出産業の花形でした。碓氷川のほとりに佇む製糸工場では、最高品質である6Aをはじめとする生糸が生産され、日本の近代化を支えた養蚕王国群馬の伝統を継承しています。

【花めぐり】

市内には花めぐりができる公園や施設、花の名所が数多くあり、梅、桜、ろうばい、アイリス、バラ、山吹、ポピーなど四季折々の花や、イベントを楽しむことができます。

秋間梅林は「ぐんま三大梅林」の一つで、秋間川上流の丘陵地に広がる梅林です。開花期には面積約50haの敷地に約35,000本の紅白梅が咲き誇り、春の香りに包まれます。



秋間梅林



桜と菜の花畑(中後閑)

(5) 市街地

安中・板鼻地区、原市・磯部地区、松井田地区にまたがる国道 18 号や旧中山道沿道を中心に住宅地が広がり、それぞれの地域ごとに趣を感じられる街並みが形成されています。各主要道路沿道には沿道型の商業施設やサービス施設、市役所や文化センター、病院などの地域の主要な公共公益施設が集まっています。

北陸新幹線が停車する安中榛名駅は、群馬県の西の玄関口として東京都や長野県方面からの往来を促すとともに、駅周辺の秋間みのりが丘地区には緑豊かでゆとりのある住宅地が整備されています。

また、市内には魅力ある集客施設や温泉街があり、訪れる人を楽しませています。また、大きな工場など特徴ある景観も楽しめます。



みのりが丘の街並み



みのりが丘の街並み



みのりが丘パノラマパーク

【安中地区】

安中地区は安中城と安中宿を中心に市街地が形成されています。中心部は碓氷川と九十九川に挟まれた東西に延びる河岸段丘に発達しており、それぞれの川に南北方向に架かる橋とそれに続く坂道、そして全体的に西に向かって緩やかに登る勾配が特徴的です。本市の重要な都市機能が集積し、都市拠点としての景観を形成しています。

安中城址周辺には郡奉行役宅や武家長屋など当時の城下町を偲ぶことができる建物や、丸石が積まれた石垣の景観が残り、落ち着いた佇まいを見せています。安中の地名は、戦国時代にこの地を治めた安中忠政が永禄 2 年(1559 年)に城を築いたことに始まると言われています。

安中宿や中山道沿いには蔵造りやレンガ造りの歴史を感じさせる建物や昭和の雰囲気を残す建物が見られ、往時の活気を偲ばせます。市街地の中心部には多くの寺社やキリスト教の教会もあり、まち歩きを楽しめます。

国道 18 号沿道では新しい商業施設や飲食店が建ち並び、現代の都市景観を形作っているほか、整備中の西毛広域幹線道路沿道では建物の移転や建替えが進んでいます。



安中の街並み



石垣

【板鼻地区】

板鼻地区は高崎市と接し、本市の東の玄関としての役割を担っています。

かつて板鼻宿は旅籠の数が 50 軒を超える中山道有数の宿場でした。中山道の開通後しばらくの間、関東防衛のため幕府が宿場の西を通る碓氷川に橋を架けることを許さず、県内の中山道で唯一の徒渡りかちわたが行われていました。いったん川止めになると多くの人や物資が溢れてしまうため、渡し場を控える伝馬宿場としての役割から栄えたとされています。

現在でも皇女和宮宿泊所や商家、板鼻堰などが往時の面影を残しています。板鼻堰は、灌漑と宿場での利用を目的に、約 400 年前に作られた用水路です。かつては蚕の蛹を餌にした鯉の養殖も盛んで、用水を各家に引き込んだ名残が見られます。宿場の裏手をゆったりと流れる様子は情緒に溢れています。



板鼻の街並み



板鼻堰

【原市地区】

原市地区は碓氷川左岸の段丘上に開けた集落です。中山道はここでは道幅が狭くなり、沿道には土蔵や大きな屋敷が所々に残っています。

市街地中心部を囲むように比較的新しい住宅地が形成され、国道 18 号沿道には商業施設や飲食店が並び、賑わいを見せています。

築瀬にある築瀬二子塚古墳やなせふたごつかこふんは 6 世紀初頭に造られた大型の前方後円墳です。全長約 80m、高さ約 8m、横穴式石室を有する前方後円墳として関東地方で最も古い特徴を備えており、国指定史跡にもなっています。この古墳は墳丘の残りが良好だったことから、平成 23 年度(2011 年度)以降、古墳の保護を目的とした整備が行われ、美しく均整の取れた姿を取り戻しています。現在は原市地区のシンボルの一つとして市民に親しまれています。



原市の街並み



築瀬二子塚古墳

【松井田地区】

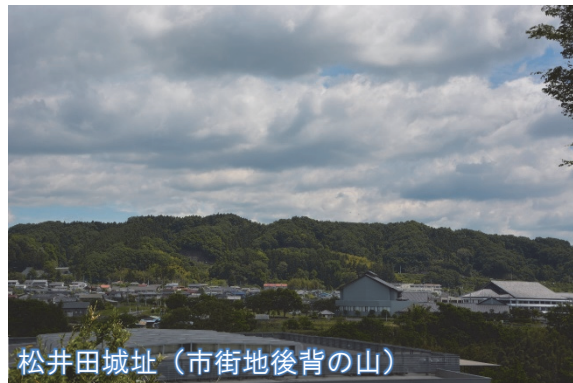
松井田地区は松井田宿を中心に形成された市街地で、碓氷川中流部の段丘上に位置しています。現在は国道 18 号と JR 信越本線に挟まれるように商店や住宅が建ち並び、地域の生活拠点となっています。

中山道を西に向かって進んでくると、妙義山や浅間山の眺めもいよいよ間近になり、鋭さを増す妙義山の稜線に圧倒されます。

地区の北側には松井田城址があります。松井田城は東西 1 km、南北 1.5 km の広大な山城で、弘長 2 年(1262 年)に青砥藤綱あおとふじつなが築城し、戦国時代にはさまざまに主を変え、天正 11 年(1583 年)から北条氏家臣大道寺政繁だいでうじまさしげにより大改修されました。天正 18 年(1590 年)、秀吉の北条攻めにより、北国勢(前田利家、上杉景勝、真田昌幸ほか)3 万 5 千の大軍を前に 1 ヶ月以上持ちこたえた後、落城しました。現在は地元の保存会により整備が行われており、群馬県内で原形を残す最大規模の山城に触れることができます。



松井田の街並み



松井田城址 (市街地後背の山)

【磯部温泉】

磯部温泉は碓氷川沿いに開けた温泉街で、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」に「磯部村此所に塩の湧き出る所あり」と書かれていることから、鎌倉時代には既に温泉が湧出していたと推測されます。万治4年(1661年)に、付近の農民の土地争いに関して江戸幕府から出された評決文の添付図に、磯部温泉を表した温泉記号が2つ描かれています。この温泉記号は日本で使われた最古のものであり、磯部温泉は温泉記号発祥の地とされています。天明3年(1783年)の浅間山大噴火のときに湧出量を増したと言われており、泉質は塩化物・炭酸水素塩強塩温泉でドイツのベルツ博士にも高く評価されています。泉温は52.6度です。

また、磯部には古くから舌切り雀の伝説が伝わっており、明治の児童文学者巖谷小波^{いわやさざなみ}は磯部温泉を訪れ取材し、現在よく知られている舌切り雀の昔話を書き上げました。舌切り雀のおとぎ話は各地に残っていますが、巖谷小波が児童文学として現代に残したことにより、磯部温泉は舌切り雀伝説発祥の地とされています。

温泉街には食堂や土産物店、鉱泉水を使用しサクサクとした食感の磯部せんべいの店などが軒を連ね、郷愁を感じさせる昭和の雰囲気が残っています。碓氷川に特徴的な河岸段丘による高低差がある街並みを路地や階段が繋いでいます。



愛妻橋より温泉街の眺め（磯部）



日本最古の温泉記号（磯部）



磯部温泉



温泉街（磯部）

【大規模な工場】

本市は交通の便が良いことなどから、内陸の工業都市として工場の立地が進んでいます。市内には、丘陵の斜面に沿って、要塞のように立体的にそびえている建物や、化学工場のプラントが立ち並ぶ様子など、安中駅や磯部駅周辺に特徴的な大規模工場景観が広がっています。これらの工場景観は、近年注目されている工場夜景としても人気を集めています。



(6) 施設

市役所本庁舎・支所、各公民館などの公共・公益施設をはじめ、碓氷峠鉄道文化むらや碓氷峠くつろぎの郷など観光拠点となるレクリエーション施設が点在しています。また、碓氷築といった地域の自然・風情を感じる特徴的な集客施設も期間限定で設置されているほか、多世代の交流の場となる、あんなかスマイルパークやゴルフ場などのレジャー施設にも市内外から数多くの人が訪れています。



(7) 交通

本市は古代より東山道、江戸時代には中山道が整備され交通の要衝として栄え、板鼻・安中・松井田・坂本の4つの宿場が設けられました。現在では市中央部を東西に横断している国道18号やJR信越本線の車窓から、市の賑わいを感じられる商業施設や、園場など市の様々な一面を見ることができます。

市域西部には上信越自動車道が数々のトンネルや橋で山々の間を縫うように走っています。この道路の碓氷橋、赤松沢橋、遠入川橋は「碓氷三橋」として平成4年(1992年)の土木学会田中賞を受賞しました。碓氷橋は斜張橋で、高さ113mの曲線を活かした逆Y字型の主塔は上信越自動車道のシンボルタワーになっています。

また、市域東部で国道18号と交差し県央地域と西毛地域を環状に連絡する西毛広域幹線道路沿道では、景観に配慮した整備が進められています。



【碓氷峠】

国道 18 号は高崎市から新潟県上越市に至る一般国道で、中山道と北国街道を継承する主要幹線道路です。本市においては碓氷川に沿って走り、県境の碓氷峠で長野県軽井沢町に接続します。

碓氷峠は、木曾のかけはし、太田の渡しとともに中山道三大難所の一つとして知られていました。明治 11 年(1878 年)の明治天皇北陸東海御巡幸の際に改良がされ、一部に新道も造られました。当時の記録には、明治天皇が新道の「屏風ヶ岩」のあたりで輿を降り、自ら坂を登ったとあります。その歩きぶりは素早く力強くて、同行の者が付いていくことが大変であったと記されています。この道は「御巡幸道路」と呼ばれ、現在も一部を歩くことができます。

明治 17 年(1884 年)には現在の国道 18 号(旧道)にあたる「碓氷新道」が完成し、その後も拡幅や改良工事が進められましたが、カーブが 184 か所もあることなどから交通量に限界があり、昭和 46 年(1971 年)、南の入山峠を通る碓氷バイパスが開通しました。

バイパス開通後、国道 18 号(旧道)には旧碓氷峠鉄道施設へのアクセス道路として駐車場や歩道等が整備され、近くの碓氷湖とともに観光客を楽しませています。特に新緑や紅葉の季節のドライブでは、カーブのたびに変化する景色を堪能することができます。

碓氷峠はそれぞれの時代の通行者に強い印象を残し、古くは日本書紀や万葉集の時代から現代の小説やマンガ、アニメまで様々に表現されてきた日本有数の峠です。



国道 18 号(旧道)(坂本)



御巡幸道路(坂本)

3. 【参考】各種景観資源の分布
(1) 山

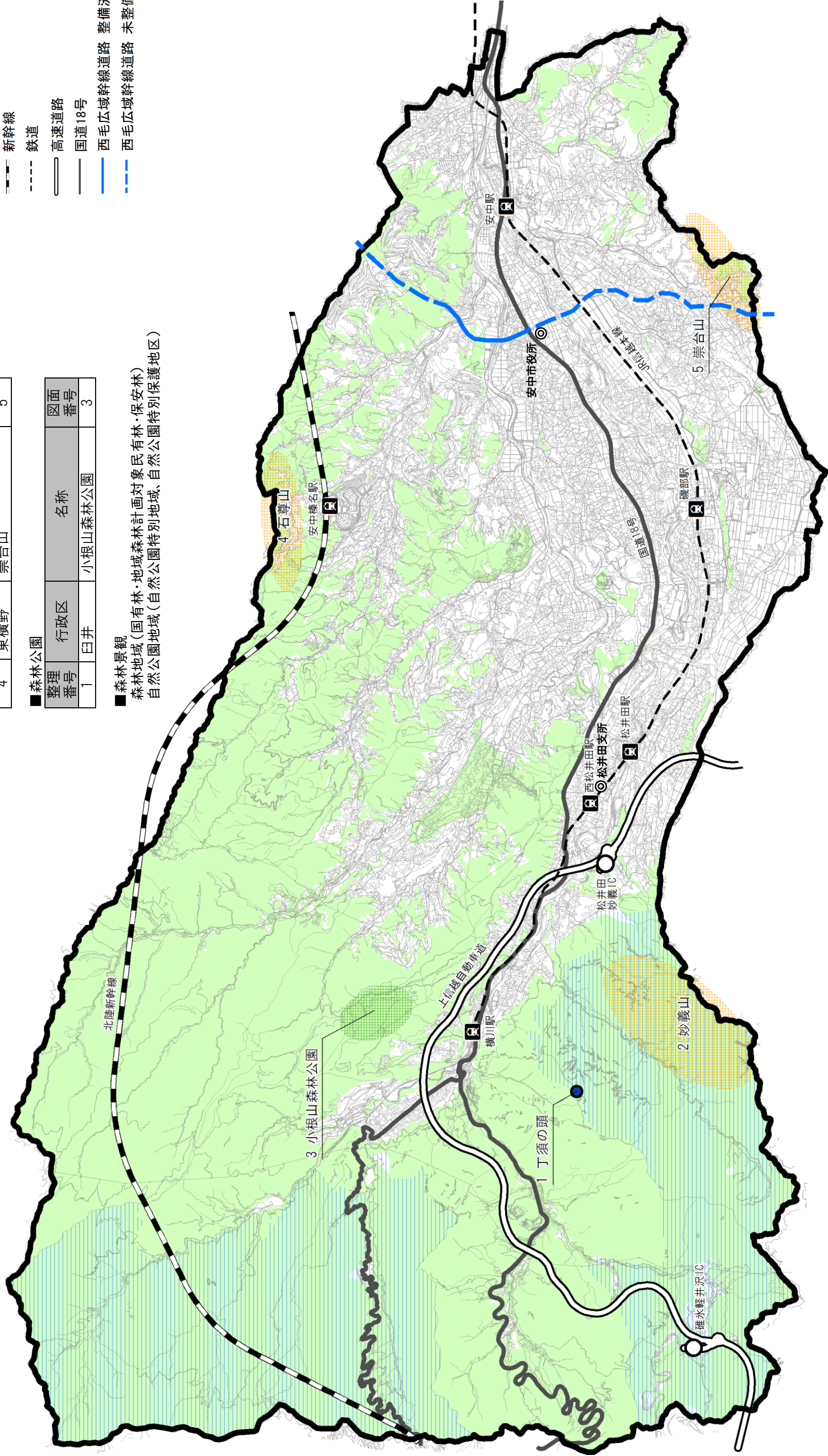
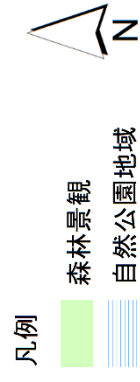
■ 地形、山なみ

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	臼井	丁須の頭	1
2	—	妙義山	2
3	秋間	石尊山	4
4	東横野	崇台山	5

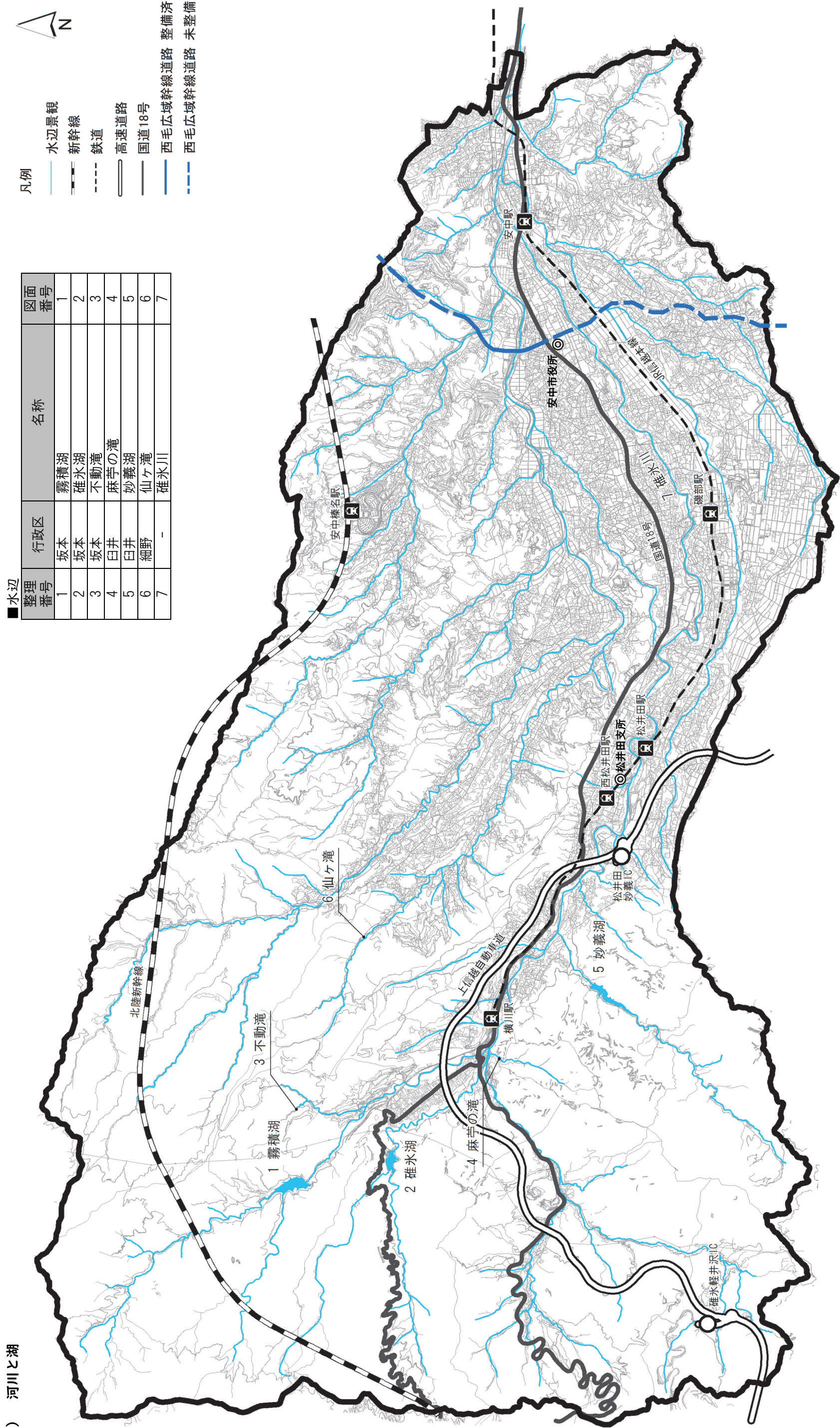
■ 森林公園

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	臼井	小根山森林公園	3

■ 森林景観
森林地域(国有林・地域森林計画対象民有林・保安林)
自然公園地域(自然公園特別地域、自然公園特別保護地区)



(2) 河川と湖



(3) 歴史

■史跡

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	板鼻	小野良佐栄重の墓	92
2	臼井	碓氷関所跡	8
3	臼井	五料の茶屋本陣 お西	12
4	臼井	横川の茶屋本陣	9
5	坂本	千駄木遺跡	4
6	臼井	五料の茶屋本陣 お東	13
7	磯部	仙石因幡守の石祠及頌徳碑	40
8	原市	築瀬八幡平の首塚	50
9	岩野谷	野殿天王塚古墳	91
10	秋間	元助遺跡義土供養塔	44
11	秋間	元助遺跡義土石像	48
12	安中	新島襄旧宅	65
13	板鼻	荒木寅三郎之墓	95
14	後閑	後閑城址	38
15	安中	太山融斎の墓	87
16	安中	山田三川の墓	68
17	安中	漆園の記碑	66
18	安中	石川忠房生祠之碑及び生祠	81
19	安中	井伊直政正室の墓・直好生母の墓	82
20	坂本	仁田遺跡	3
21	西横野	堀込家上段の間	35
22	細野	岩井重遠の墓	15
23	松井田	松井田城址安中郭跡	25
24	板鼻	寒念仏橋供養塔	96
25	安中	便覧舎跡	69
26	秋間	館の百体馬頭観世音	64
27	安中	柏木義円の墓	88
28	後閑	後閑三号墳	45
29	秋間	万福原古墳(秋間12号墳)	62
30	秋間	下秋間後平の百庚申	63
31	原市	築瀬二子塚古墳	51
32	九十九	下増田上田中1号墳	32

■寺社

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	龍昌寺(和合の鐘)	67
2	原市	海雲寺(招き猫の寺)	39
3	磯部	赤城神社	43
4	東横野	羊神社	53

■祭事

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	安中中宿の燈籠人形	89
2	東横野	咲前神社太々神楽、 鷺宮太々神楽保存会	60
3	西横野	八城の人形浄瑠璃 (附頭50個)	22

■重要樹木

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	原市	安中原市のスギ並木	58
2	細野	細野のヒガンザクラ	16
3	臼井	中木のサザンカ	10
4	安中	西広寺のツバキ	84
5	安中	大櫓	85
6	安中	安中小学校の大きいちょう	74
7	坂本	五郎の大杉	6
8	西横野	行田の彼岸桜	14
9	坂本	恩賀のぐみ樹	2
10	磯部	磯部神明宮のヒイラギ	57
11	細野	木馬瀬の福寿草自生地	11
12	細野	乾窓寺のもくせい	17
13	原市	榎下神社の社叢	49
14	細野	細野の一本桜	19

■文化財

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	坂本、臼井	旧碓氷峠鉄道施設	7
2	安中	日本基督教団安中教会教会堂	76
3	安中	日本基督教団安中教会温古亭	79
4	安中	日本基督教団安中教会義圓亭	78
5	安中	日本基督教団安中教会宣教師館	77
6	安中	栄朝禅師木像	90
7	坂本	古鐘	1
8	松井田	石塔婆	27
9	松井田	不動寺木彫不動明王	29
10	松井田	松井田八幡宮本殿	24
11	松井田	不動寺の仁王門	28
12	磯部	松岸寺の五輪塔	52
13	後閑	木造地蔵菩薩立像 1 軀	31
14	後閑	満行寺木彫神像等 4 軀	30
15	原市	旧碓氷社本社事務所 1 棟 附棟札 1 枚・来賓便所 1 棟	55
16	秋間	三角の橋供養塔	47
17	秋間	恵宝沢の道標	37
18	東横野	聖観音碑	70
19	安中	熊野神社社殿	86
20	松井田	天龍朝陽・錦山古賀の碑	21
21	坂本	芭蕉句碑	5
22	板鼻	称名寺の鐘	94
23	秋間	桂昌寺の鐘	75
24	原市	真光寺の鐘	54
25	原市	地蔵菩薩像	46
26	九十九	磯貝雲峰の碑	33
27	原市	郷原の妙義道常夜燈	34
28	原市	郷原自性寺の宝篋印塔	36
29	細野	乾窓寺山門（附懸額）	18
30	松井田	上町の山車	26
31	安中	旧安中藩武家長屋	71
32	安中	旧安中藩郡奉行役宅	73

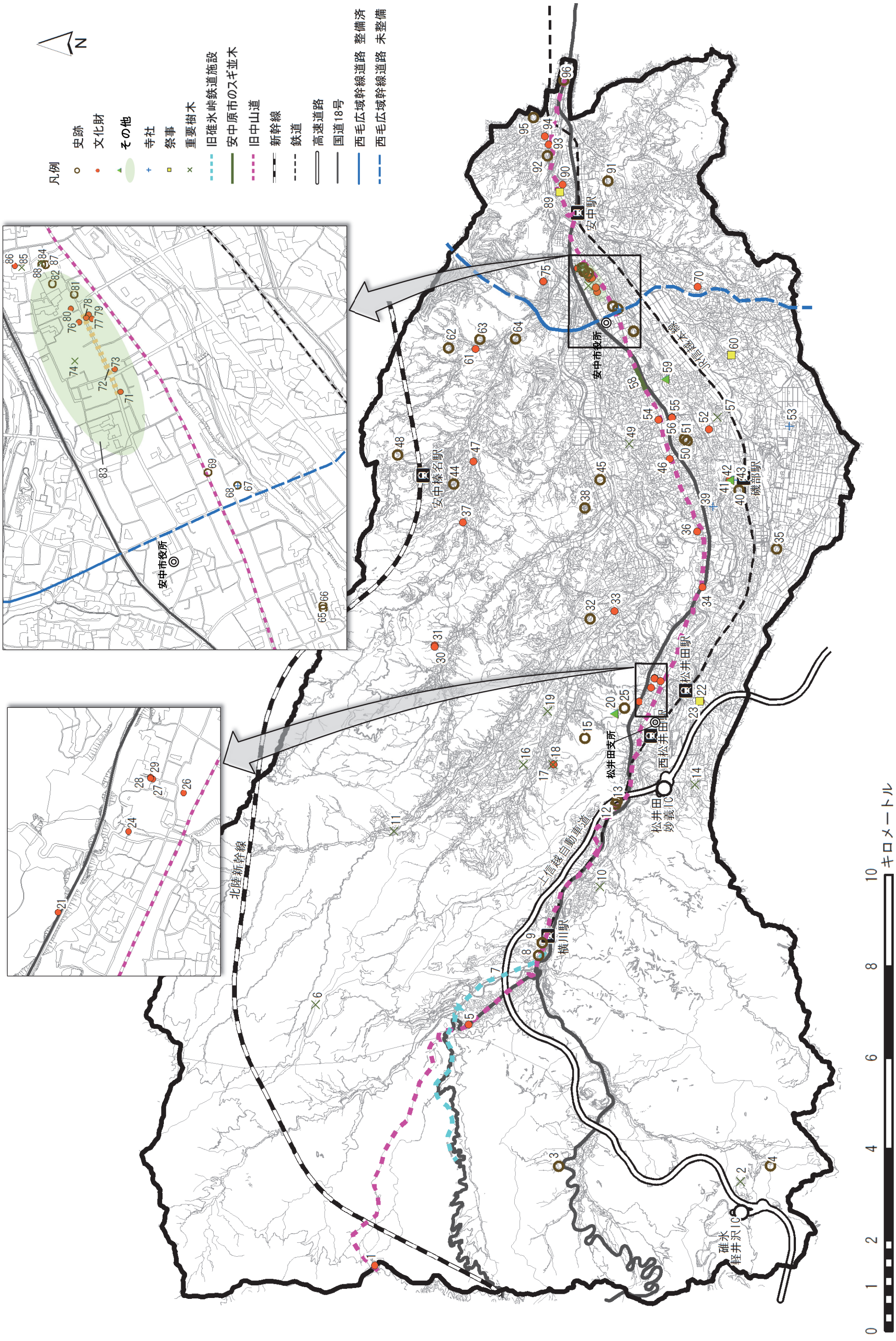
整理番号	行政区	名称	図面番号
33	西横野	八塔石紅地蔵	23
34	安中	旧碓氷郡役所	80
35	秋間	下秋間藤ノ木の地蔵菩薩石像	61
36	安中	大名小路	72
37	板鼻	板鼻本陣跡（皇女和宮御宿泊所）	93
38	原市	旧碓氷社本社事務所	56
39	磯部	磯部公園詩碑	41

■その他

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	市内各所	妙義道	
2	安中	石垣のまち並み （安中城周辺）	83
3	磯部	温泉記号発祥の地	42
4	松井田 九十九	松井田城址	20
5	原市	世界最古のマイルカ化石	59
6	なし	鉄道建造物 （JR 信越本線沿線）	
7	市内各所	近代化遺産	

■歴史的街道

旧中山道



(6) 施設

■公共・公益施設

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	安中市役所	67
2	松井田	松井田庁舎	21
3	松井田	松井田町ゆうあい館	23
4	原市	碓氷川クリーンセンター	63
5	安中	谷津庁舎	69
6	原市	公立碓氷病院	52
7	板鼻	安中市老人福祉センター	86
8	安中	地域福祉支援センター	75
9	磯部	磯部温泉会館	45
10	安中	安中消防署	65
11	原市	安中消防署郷原分署	42
12	臼井	安中消防署松井田分署	14
13	原市	安中警察署	57
14	松井田	安中警察署松井田分庁舎	19
15	安中	高崎公共職業安定所 安中出張所	64
16	安中	安中土木事務所	77
17	安中	光陽館	78
18	安中	安中保健福祉事務所	61
19	東横野	すみれヶ丘聖苑	58

■公園運動施設

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	西毛総合運動公園	83
2	安中	ひさよし緑地公園	81
3	後閑	観梅公園	36
4	安中	米山公園・米山体育館	68
5	後閑	後閑城址公園	40
6	坂本	碓氷峠の森公園	3
7	原市	あんなかスマイルパーク	47

■公民館等

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	安中公民館	73
2	原市	原市公民館	50
3	磯部	磯部公民館	54
4	東横野	東横野公民館	59
5	岩野谷	岩野谷公民館	85
6	板鼻	板鼻公民館	87
7	秋間	秋間公民館	56
8	後閑	後閑公民館	37
9	臼井	農業研修センター	12
10	坂本	坂本公民館	4
11	西横野	西横野地区多目的集会施設 (西横野定住センター)	32
12	九十九	九十九地区生涯学習 センター	31
13	細野	細野ふるさとセンター	15

■レクリエーション・集客施設等

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	安中市文化センター	71
2	松井田	松井田文化会館	20
3	東横野	学習の森	70
4	磯部	恵みの湯	46
5	安中	安中市 スポーツセンター	66
6	坂本	碓氷峠くつろぎの郷	5
7	臼井	碓氷峠鉄道文化むら	9
8	西横野	妙義山麓美術館	18
9	磯部	磯部築	44
10	磯部	磯部温泉	43
11	坂本	霧積温泉	2
12	細野	岩乃湯	10

■学校

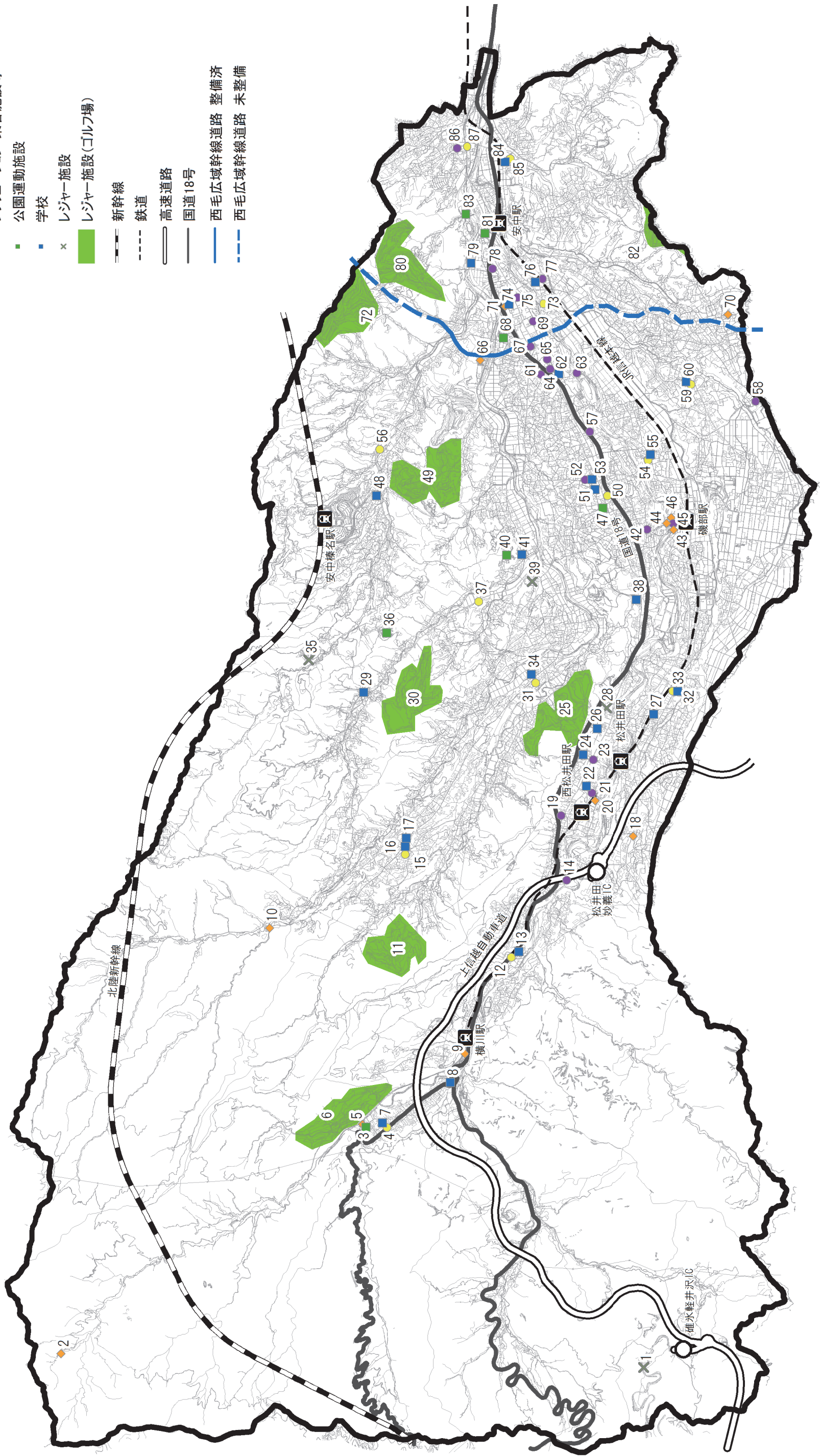
整理番号	行政区	名称	図面番号
1	安中	安中小学校	74
2	原市	原市小学校	53
3	原市	原市小学校郷原分校 (廃校)	38
4	磯部	磯部小学校	55
5	東横野	東横野小学校	60
6	岩野谷	碓東小学校	84
7	秋間	秋間小学校	48
8	後閑	後閑小学校	41
9	後閑	上後閑小学校(廃校)	29
10	松井田	松井田小学校	24
11	臼井	臼井小学校	13
12	坂本	坂本小学校(廃校)	7
13	西横野	西横野小学校	33
14	九十九	九十九小学校	34
15	細野	細野小学校	16
16	安中	第一中学校	79
17	原市	第二中学校	51
18	松井田	松井田東中学校	22
19	坂本	松井田西中学校 (廃校)	8
20	西横野	松井田南中学校	27
21	細野	松井田北中学校	17
22	安中	安中総合学園高等学校	62
23	松井田	松井田高等学校	26
24	安中	新島学園中学校 ・高等学校	76

■レジャー施設

整理番号	行政区	名称	図面番号
1	坂本	八風平キャンプ場	1
2	秋間	群馬フラワーハイ ランド	35
3	後閑	アイリスの丘	39
4	後閑	太平洋クラブ高崎 コース	30
5	細野	熱海倶楽部 東軽井沢ゴルフコ ース	11
6	九十九	高梨子倶楽部	25
7	坂本	ヴィレッジ 東軽井沢ゴルフク ラブ	6
8	秋間	梅ノ郷ゴルフ倶楽 部	49
9	秋間	下秋間カントリー クラブ	72
10	秋間	レーサムゴルフ& スパリゾート	80
11	東横野	富岡倶楽部	82
12	松井田	松井田バラ・多肉植 物園	28

凡例

- 公共・公益施設
- 公民館等
- レクリエーション・集客施設等
- 公園運動施設
- 学校
- × レジャー施設
- レジャー施設(ゴルフ場)
- 新幹線
- - - 鉄道
- 高速道路
- 国道18号
- 西毛広域幹線道路 整備済
- - - 西毛広域幹線道路 未整備



(7) 交通

■交通施設

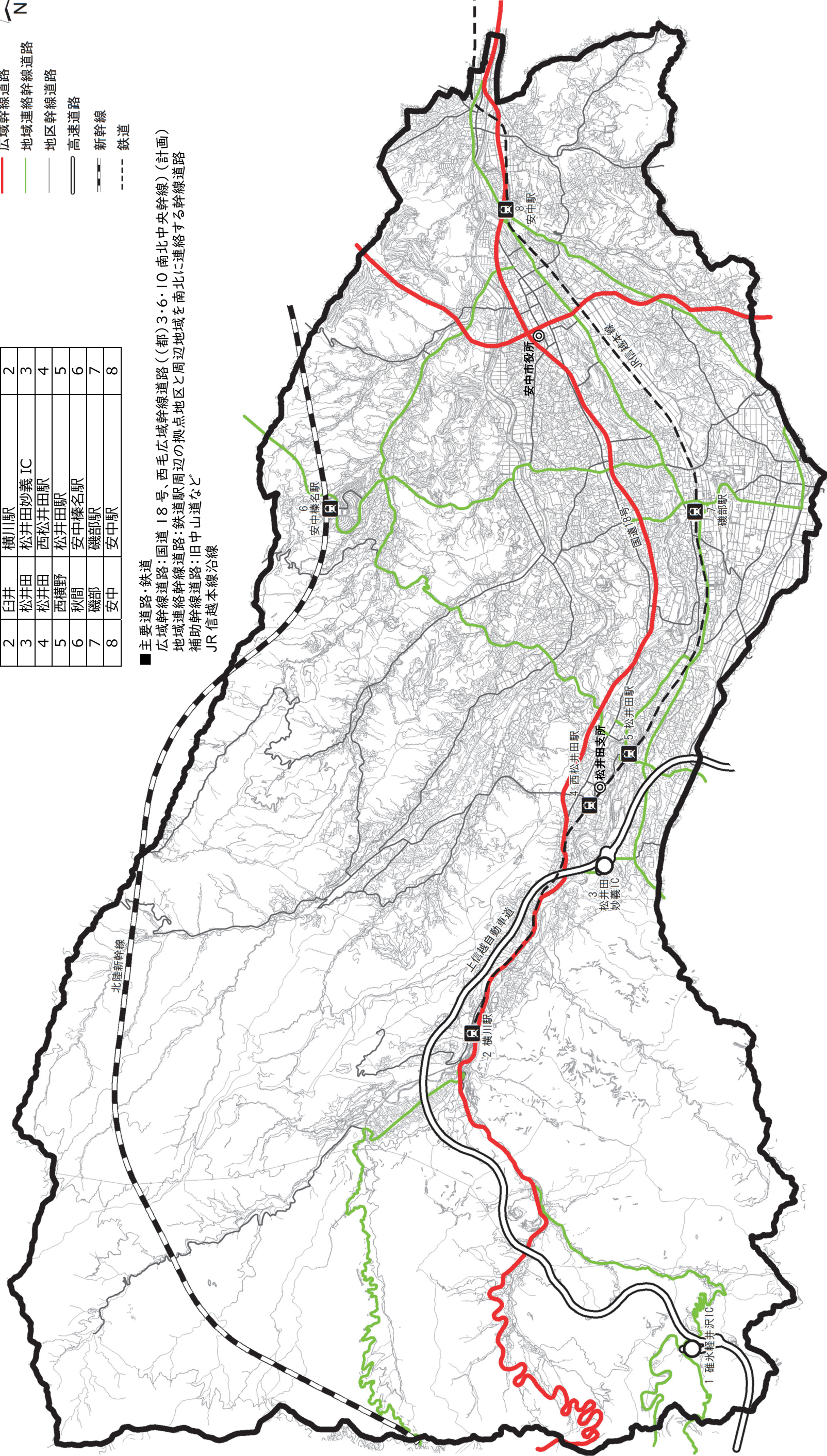
整理番号	行政区	名称	図面番号
1	坂本	碓氷軽井沢IC	1
2	臼井	横川駅	2
3	松井田	松井田妙義IC	3
4	松井田	西松井田駅	4
5	西横野	松井田駅	5
6	秋間	安中榛名駅	6
7	磯部	磯部駅	7
8	安中	安中駅	8

凡例

- 広域幹線道路
- 地域連絡幹線道路
- 地区幹線道路
- 高速道路
- 新幹線
- 鉄道



- 主要道路・鉄道
- 広域幹線道路：国道18号、西毛広域幹線道路（（都）3・6・10南北中央幹線）（計画）
- 地域連絡幹線道路：鉄道駅周辺の拠点地区と周辺地域を南北に連絡する幹線道路
- 補助幹線道路：旧中山道など
- JR信越本線沿線



2-4 住民意向の状況

1. 景観まちづくりに対する意向把握

(1) 安中市景観まちづくりに関するアンケート調査

安中市景観計画の策定にあたり、計画策定に活かしていくため、市民の皆さまが景観について日常生活の中で感じていることについてのご意見やアイデアを広く収集するため、下記のとおりアンケート調査を実施しました。

表 調査概要(市民意向調査)

調査名称	安中市景観まちづくりに関するアンケート調査
調査対象	市民 2,000 名（住民基本台帳から無作為抽出）
調査期間	令和元年 7 月 22 日～8 月 5 日
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
回収数・回収率	727・36.4%

(2) ウェブアンケート調査

市民を対象とした上記アンケートと並行し、本市を訪れたことがある方を対象に、本市の景観について感じたことをご意見として広く収集するため、インターネットを活用したアンケート調査を実施しました。

表 調査概要(ウェブアンケート)

調査名称	安中市景観まちづくりに関するアンケート調査
調査対象	本市を訪れたことがある方
調査期間	令和元年 7 月 22 日～8 月 5 日
配布・回収方法	ウェブ公開・システム集計
回収数	59（有効：55）

2. 景観まちづくりに対する意向把握のまとめ

良いと思う景観について、「山並み・森林」などの自然景観や「農地」などの田園風景が多く挙げられており、特に自然景観では「妙義山」「浅間山」、田園風景では「九十九川桜並木」が回答されているほか、歴史的な景観である「めがね橋」についても多く回答されています。

一方、良くないと思う景観については、「空き家・空き店舗」「荒れた農地」のほか、「荒れた山林」や「配慮にかけられるソーラーパネル」が挙げられています。また、そうした状況を受け、景観まちづくりに必要な点として「空き地・空き家への対応」「自然景観の保全」が挙げられており、そのために「空き地・空き家の管理」や「ソーラーパネルの景観への配慮」に関するルールづくりが必要という意見が多く挙げられています。

景観まちづくりの取組については、7割を超える方が関心を持っており、情報提供や周りの方と参加できる仕組みづくりが重要との意見が多く挙げられました。

本市で楽しめるアクティビティとしては、山々の景観を活かした「自然散策」や「温泉」が多く挙げられています。

2-5 景観形成の現状と課題の整理

1. 良好な景観形成に向けた主な課題

本市は、市民の心象風景と言える妙義山をはじめ、山々や河川などの自然景観、農地・田園景観、旧中山道周辺に残る趣ある建築物や旧碓氷峠鉄道施設など、様々な景観資源を有しています。

特に妙義山や旧碓氷峠鉄道施設などは観光資源としても有名であり、これらを一目見に多くの来訪者が訪れているほか、長野県方面への交通の要衝でもあることから、主要な動線である国道18号や整備が進められている西毛広域幹線道路では、魅力ある沿道景観としていくことが重要です。

一方で、人口減少による地域活力の低下を背景として、下記のような状況が生じており、良好な景観形成を阻害する要因となっています。こうした状況への対応と併せ、現在ある景観資源を保全し、より良くしていくことが、本市における良好な景観形成に向けた課題です。

【本市で生じている状況と周辺景観への影響】

- **空き地・空き家・空き店舗（管理不全を含む）の増加**
⇒市街地の空洞化、にぎわいの低下、管理不全物件による景観悪化、物品などの野積み
- **耕作放棄地の発生**
⇒他用途への転用・耕作放棄による景観悪化、物品などの野積み
- **周辺景観へ配慮されていない太陽光発電設備の増加**
⇒周囲への圧迫感、日光などの反射、眺望景観の阻害
- **旧中山道沿道などで歴史を感じる要素が減少**
⇒市の個性の減退、通りとして一体感のある景観の阻害
- **山林の転用、管理できない森林の荒廃**
⇒市の重要な景観要素である自然景観の悪化